

## 私のすすめるこの1冊

谷口 和成 (理学科 教授)

### 『Appleのデジタル教育』

ジョン・カウチ, ジェイソン・タウン (著) 花塚恵 (訳)

先日、私の研究室の卒業生が久しぶりに訪ねてきた。彼の勤務校では、これからの社会に対応した新しい教育課程を検討しているそうだ。その話題の中で、検討中に見つけた「おもしろい本」として紹介されたのがこの本である。

著者はAppleの教育部門の初代責任者で、タイトルから察するに、いわゆる「一流企業の啓蒙書っぽい」ので正直あまり好みではなかったが、原題は「Rewiring Education: How Technology Can Unlock Every Student's Potential」であり、邦題にある“Apple(企業名)”はどこにもない。さらに「教育のリワイヤリング(配線のやり直し)」という言葉に興味を持ったこともあり、読んでみることにした。

結論から言えば、確かにおもしろいだけでなく、よくまとまっていて、また専門書ほどではないものの主張の根拠となる理論や実践結果などの参考文献も多く、説得力のある内容であった。なにより、いまの学校現場にとって示唆に富む内容であった。そこで、この本をお薦めするにあたって、私が特に興味をもった、この本の背景にある(と思われる)考え方を紹介したい。

それは、Appleの創始者のひとりである、スティーブ・ジョブズ氏の「テクノロジー(デジタル技術)」の捉え方である。ジョブズ氏は、著者との会話の中で「テクノロジーは、思考にとっての自転車のようなものだ」とし、「自転車が人間の身体能力を増幅させるように、テクノロジーは知性を増幅させる」と述べている。特に、「知識をより効率的に与えてくれるだけではなく、かつてない発見、想

像、革新を可能にし、新しい世界へ導いてくれるもの」という捉え方は現代でこそ理解できるが、これをAppleの起業当時(40年以上も前)に既に述べており、その先見の明に今さらながら驚かされた。

ひるがえって現在、日本の学校現場ではICTが急速に導入されてきているが、私が知る限り「知識を得たり、確認したりするツール」として使用されていることが多い。ここで、ジョブズ氏に倣えば、ICTの恩恵を最大にし、原題にあるように「すべての子どもの可能性を解き放つ」には、ICTを「子どもたちの思考を増幅するもの」として学習に位置づけることが重要であり、これからの教育の大切な指針になりそうである。

このように書くと、もっと詳細な情報や具体的な方法を知りたくなった人も多いかと思う。実は、それを実現するための根幹となる考えが、原題の「教育のリワイヤリング」であり、本書にはそれを理解するための理論や考え方(たとえば、動機づけ、学習の定義や方略、教師の役割、カリキュラム等)が、文献を引用し著者らの経験を交えながら、わかりやすく丁寧に説明されている。

“デジタルネイティブ”と呼ばれる現在の世代に対する教育のあり方として、これから教職を目指す学生だけでなく現職や管理職の先生など、それぞれのキャリアにおいて、参考になる箇所が異なる(変化していく)であろう内容となっている。是非、一読されることをお薦めしたい。

## 郵送貸出および返却期限日についてのお知らせ

新型コロナウイルス拡大防止に伴う大学の対応にもとづき、遠隔授業の支援サービスとして郵送貸出を実施しています。



また、返却期限日につきましては、夏季長期貸出適用期間であることを考慮し、当面の間、返却期限日の延長は行いません。延滞による罰則も通常どおり適用されます。

ただし、どうしても返却が難しい場合は個別にご相談ください。

サービスの内容は、状況により変更になる場合があります。変更が生じた場合は、附属図書館ホームページ等にてお知らせします。

## 学修相談カウンター／リクエストと投票で話題の本を読もう！

**9月はお休みですが、10月に再開します！**

### 学修相談カウンター

理数系の院生がいろいろな質問に対応してくれます。勉強や就職のこと、先輩に相談してみませんか？



気軽に相談してください。

### リクエストと投票で話題の本を読もう！

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画をしています！

※読みたい本のリクエストをお待ちしています。

## Webブックハンティング

学生の皆さんが書店のWebサイトから「図書館に置いてほしい本」を選ぶイベント・Webブックハンティング2021（前期）を開催しました。

6名の参加があり、83冊を購入しました。読みやすい教養書からマンガ、各分野の専門書まで幅広く選書され、興味深いラインナップとなっています。各自が作成したPOP（紹介カード）と一緒に展示しています。



【展示期間】2021年8月17日（火）～10月30日（土）**貸出可能です！**

ぜひ、ごらんください。

## 「教育新聞」「日本教育新聞」「切抜き速報・教育版」のこと

附属図書館では全国紙や地方紙、子ども向け新聞、英字新聞を購読していますが、「教育」に特化した専門紙も購読しています。それが「教育新聞」と「日本教育新聞」です。どちらも毎週発行されています。各種調査や特色ある取り組み、実践事例など様々なリポートが満載です。また、雑誌「切抜き速報・教育版」は新聞に加え、通信社、日本新聞協会、政党機関紙など85紙からトピックにより切り抜いた新聞記事を掲載しています。こちらは毎月発行されています。どちらも新着雑誌コーナーに配架しています。勉強にレポートに試験に最新の情報収集ツールとしてご利用ください。

## 令和2年度利用統計

サービス統計		R2 年度	R1 年度
入館者数		49,951 人	89,080 人
貸出冊数		17,041 冊	24,669 冊
うち学生への貸出		14,843 冊	20,143 冊
図書貸借	依頼	193 件	139 件
	受付	104 件	144 件
文献複写	依頼	346 件	328 件
	受付	375 件	649 件
複写枚数(学外・学内)		8,141 枚	12,137 枚
レファレンス(参考調査)		905 件	873 件

蔵書冊数	R2 年度	R1 年度
図書	462,617 冊	454,392 冊
うち開架図書	317,898 冊	314,227 冊
雑誌	6,759 種	6,758 種
新聞	13 種	12 種



## 開架から全集コーナーへの一部移動について

9月1日(水)～9月3日(金)に、西館と南館の2階にある開架図書のうち、個人全集や文学全集などの図書を全集コーナーへ移動させる作業を行います。作業中は、作業音の発生や、一時的に利用できなくなる資料もありますが、コーナーへの立入は可能です。開架から図書を引き抜くことで新しい図書を入れることができるようになり、また同じフロアの全集コーナーを整理・充実させることで、より探しやすくなることを目指しています。引き続き、全集資料をご活用ください。

## 夏季休業に伴う長期貸出について

学部生：7月29日(木)～9月22日(水)

院生・教職員：7月15日(木)～9月8日(水)

【返却期限日】10月8日(金)

※卒業・修了予定者は9月10日(金)まで

## Web オープンキャンパス開催中！

2021年8月17日(火)に開催予定であった対面でのオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となりました。現在「Web オープンキャンパス2021」を公開中です。♪ぜひチェックしてください。  
URL:<https://www.kyokyo-u.ac.jp/opencampus2021/>



## 有効期限の延長について

2021年9月末で本学を修了する予定の方(科目等履修生・研究生・特別聴講生を含む)は、貸出可能な有効期限が9月10日(金)までとなっているため、返却期限日も9月10日(金)になっています。資料を借りている方は、忘れずに返却してください。

ただし、9月10日(金)以降も研究を継続する場合に限り、有効期限を9月30日(木)まで延長することが可能です。

カウンターにて手続きして下さい。なお、図書館への入館・閲覧については、手続き不要です。

(9月30日(木)まで利用可能)

## 雑誌の製本作業について

8月から10月中旬(予定)まで、南館1階・西館3階にある雑誌のうち、2019年～2020年に発行されたものを中心に、一部の巻号が製本作業のため利用できなくなります。

製本後はすべて西館3階(書庫)に並べますので、そちらをご利用ください。

※作業中は製本対象リストを図書館ホームページに掲載しています。

## 企画展示室の利用について

展示にご興味ございましたら、利用について図書館事務室までお問い合わせください。

【過去開催された公開展示】

研究発表(e-Project)、写真展、作品展、美術展、ミニ博物館 など。どんどん活用してください。



## 児童書コーナー (南館1階)



★学生による絵本のよみかせは、しばらくお休みです。

※児童書コーナーにかわいいカードが飾られていますので、ぜひ見に来てください。



### 今月の絵本カード (学生作)

『おふるだいすき』

作：松岡 享子

絵：林明子

出版社：福音館書店

## 教育資料館 まなびの森ミュージアム

開館日時等については、資料館ホームページをご確認ください。

今月の逸品 (8・9月)

『少年期を戦争の中で育った私  
一孫の頼みに応える戦争体験記』

展示場所：図書館

教育資料館 まなびの森ミュージアム  
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>



## 論のくちび理のむすび

今回の執筆者 荻野 雄 (社会科学科 教授)

「ゲオルク・ジンメル『ゲート』(1):「自己決定」の神話を超えて」  
「ゲオルク・ジンメル『ゲート』(2):「内奥から動かされてある存在」と「原現象」

荻野 雄

京都教育大学紀要 2021, No. 138, pp. 43-58  
京都教育大学紀要 2021, No. 138, pp. 59-74

今日社会が考察される際には、自我が「自由に決断する主体」としてどれだけ尊重されているかが、しばしば自明の評価基準となっています。「自分に関わる事柄は自分が決めるべき」という自己決定の考え方は、一般常識にも広く浸透しているので、このことは当然とも言えます。

しかし昨年逝去した、戦後日本を代表する評論家の山崎正和は、まさにこの自己決定する自我という観念を主たる批判の対象としていました。山崎によれば自我の決断は、それが自由に行われたものであっても、自分の外部の目的あるいは理想を選択することに他なりません。そしていったん何らかの理想や目的が選り取られれば、以後人間の行動はそうした外部の何かを速やかに実現するように強いられて、いわば「効率的な生産の論理」に巻き込まれていきます。自己決定は、結局人間を外部の何かに従属させることになるのです。この従属から人間を解放するため、山崎は、決定することではなくリズムに乗せられていることこそ自我の根源だと説きました。

山崎のこの見解は、決して思想上特異で風変わりなものではありませんでした。ドイツの社会学者、哲学者のゲオルク・ジンメル(1858~1918)もまた、自己決定する自我を否定して、独自のリズムに担われた自我こそ本来の自我だと論じました。山崎と同様ジンメルも、個人の自発性をより根底的に守り、活かすという問題関心に動かされていたのです。本稿は、難解なためこれまでほとんど論じられてこなかったジンメルの哲学を、山崎の視角を手掛かりにしてその基本動機に光を当てながら、1913年のゲート論を中心に解説しています。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 138号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUER)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>に掲載されています。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2021年9月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

9/1 館内整理日  
9/4 大学院入試

※開館日程につきましては、変更となる場合がございますのでホームページをご確認ください。

2021年10月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

10/1 後期授業開始  
10/23 大学院入試

●京都教育大学附属図書館ホームページ  
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/library/>

●携帯版 OPAC (QRコード)   
<https://tosh2.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>

京教図書館 News No.252 (2021年9月号)  
発行日:2021年9月2日  
編集発行:京都教育大学附属図書館  
問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp

国立大学法人  
京都教育大学  
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION